

平成28年度第2回まちづくりトーク
「熊本地震から見る地震への備えと避難所生活」

平成28年7月24日

【東コーディネーター】 それでは、定刻になりましたので、まちづくりトークを始めます。皆さん、こんにちは。夏のお暑い中、たくさんの方にお越しいただきありがとうございます。私は本日の司会進行を務めます市民協働コーディネーターの東です。どうぞよろしくお願いいたします。

本日のテーマ「熊本地震から見る地震への備えと避難所生活」ということで、熊本地震が記憶に新しいところですが、逗子に住む私たちも自分ごととして捉えるべく、現地の調査報告と避難所に関するレクチャー、そして、ワークショップを行います。本日は2部構成で行います。まず、逗子市防災課の浅見さんから熊本地震の被害状況と三浦半島の活断層についてお話をいただきます。続いて、第2部で国立保健医療科学院健康危機管理研究所部長、金谷泰宏様より避難所の要支援者対応についてとグループワークを行わせていただきます。グループワークは、今、小学校区ごとにお座りいただいておりますけれども、この小学校区ごとでお話し合いいただく形になります。今日は見事にいい感じでグループに分かれてよかったと思っていますけれども、また後半のグループワークもお楽しみください。

では、中身に入る前にゼロウェイストのご案内をいたします。現在、市では、ゼロウェイストへの挑戦ということで、ごみをできるだけ出さない、燃やさない、埋め立てないための減量化、資源化の取り組みを強力に推進しています。本日のイベントでもなるべくごみを出さないことにご協力をお願いしますとともに、ご家庭でもなるべくごみを減らして、ごみの減量化、資源化にご協力をいただきますよう、この場をかりてお願い申し上げます。

ということで、まず、最初に市長からご挨拶をお願いいたします。よろしく願いいたします。

【平井市長】 皆さん、こんにちは。大変いい天気、行楽日和の土曜日なんですけれども、これだけたくさんの方にお集まりいただきましてほんとうにありがとうございます。

本日は、今、司会からもありましたように、熊本地震ということ踏まえて、逗子市でどう災害対策、減災対策を皆さんと一緒に強化すべきかということで、避難所の運営訓練が9月以降、計画されていると思いますので、ぜひそれに皆さん、参考いただいて、それぞれの地域でさらなる防災力の強化に資すればということで企画いたしました。いろいろな疑問があると思

います。専門家の先生に今日はお越しいただいていますので、忌憚のないご質問、ご意見をいただいで、逗子市としてしっかりと取り組んでいきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【東コーディネーター】 ありがとうございます。

それでは、早速、これから第1部で熊本地震の被害状況の報告に入りますので、正面のスライドを使って説明していきますので、後ろ向きに座っていただいている方は正面を向いていただければと思います。スライドの資料は皆様のお手元に配付してありますので、もしないという方はお手を上げてお知らせください。

では、浅見さん、よろしく願いしていいでしょうか。皆さん、拍手でお願いいたします。

【浅見主査】 こんにちは。防災課の浅見です。

6月1日から5日まで現地調査に行ってきました。どちらかというと、活断層の調査を中心にやってきましたので、その活断層の状況、それから、では、三浦半島に入ったらどうなるのかということちょっとまとめてお話しさせていただきます。限られた時間でお話ししますので、早口になってしまったり、お聞き苦しいところがあったら申しわけありません。私の時間は今から20分ということになっておりますので、それでさせていただきます。熊本地震と三浦半島の活断層、それから逗子市の状況をどういうふうに判断していくかということを中心に話しさせていただきます。

まず、近づいていく飛行機の中から見た様子です。こここのところに風車が写っているんです、上のところに。この風車が写っているところが南阿蘇村です。近づいてくる。ちょうど阿蘇の真上を通りながら熊本空港というのは入っていくということが初めてわかったんですが、それで入っていきまして、下側のものについては、大津町あたりです。そして、もうちょっとブルーのシートが非常に目立っているところが菊陽町という部分でしょうか。その付近になるかと思えます。それから、海の中へ入って、それで、Uターンして益城空港に着くというような形で飛行機が飛んでいきました。

益城町の中を活断層が走っているんですが、赤い線で示したところが活断層の確認した場所です。こんなところに活断層が入っているということで、益城町の穀倉地帯というか、河原に相当する部分なんです、木山川という川が流れておりまして、その木山川の氾濫原のところに畑ができていて、その木山川の氾濫原から上の段丘に上がる、その途中のところから段丘にかけてが益城町という町ができ上がっているところです。河岸段丘の上でできた町なので、そのために大きな被害になってきたということが現地の調査からわかりました。

震度7はどんな状況になるのかというのは、これがそうです。見ると、普通に家が建っているように見えるかと思うんですが、全部1階がつぶれておるんです。2階家だったんです。全部1階がつぶれてしまった。それから、右下の写真につきましては、道路を確保するということで、崩れてきたお宅の建物は全部敷地の中にブルドーザーか何かで押し戻して、あとは自分で始末しろよみたいな感じでどんどん積み上げていっちゃっている。じゃないと、道路が確保できないということなんです。この道路確保という問題は、多分逗子市でも発災したときには大きな問題になると思います。このことは今後、考えていただきたいと思います。

と申しますのは、これが鉄筋入りのブロックなんです。3枚の写真とも全部鉄筋の入ったブロックなんですけれども、鉄筋の入ったブロックがこのように簡単に壊れてしまう。これが震度7なんです。ですから、逗子の街の中を歩くと、ブロック塀がいっぱいあるかと思えます。実際にそここのところは発災した場合には、逗子の場合も三浦半島の活断層が動くと言われ震度7です。ということは、こういうふうにブロック塀が倒れてくる危険があるということを知っておいていただきたいと思います。

ちょっと大きく写してある左側の部分の写真のところは、太い鉄筋が入っています。ブロック塀が大きくなった分だけ太い鉄筋を入れたんですが、それでも対応できていないというのが現状です。

斜面を上がっていて非常によく出てくるのが、基礎がだめになっているんです。家の擁壁を立てて、その上にちょっと家を高くしてその上に家を建てるというと、全部その下が破壊されてしまっている。こんな状況が出てきていまして、これは何かというと、後でちょっと出てくる、下の地質構造の問題が大きいということが後でわかりました。それから、もちろん液状化なんていうのはそこら中で起きております。アスファルトで敷いてあったところについてはもうぐにゃぐにゃになってしまっている。波を打っている。

それから、マンホールの抜け上がりです。右上のところに出ている写真については、マンホールが50センチぐらい浮き上がっています。これは益城町の体育館の脇で写したやつなんです。50センチから上がってしまう。これがほかのところでも20センチぐらいは平気で道路が上がっています。だから、発災直後の部分に関しては、おそらく道路が走れなかつたろうと思います。道路をまともに走ろうとしたら、ぼっこんぼっこんやって、車の下、シャーシを傷めてしまうというようなことが起きたら。それから、右下の部分については、抜け上がりでもって、建物は丈夫なんですけれども、下の地盤が下がってしまった。多分この市役所の入口がこういうことになると思います。階段を1つ設けないと、市役所には入れないという

ような状況になることが想定されます。

それから、ちょっと怖かったのが、この町自慢の文化会館ということで、ちょうど段丘の段差のところに建物を建てていたんです。このブルーシートで覆ってあるので、中身が見えなかったんですが、上に上がってみると、あらあらこんなんで大丈夫、すごいひどいねという。避難所に絶対ならないという状況なんですけれども、見ていただくとわかるように、どれも道路にはひび割れが全部入っていますし、建物のすぐ脇を見ていただくと、10センチぐらい落ち込んでいます。それから、ちょっと怖かったのが、この右下に当たります玄関の部分です。この玄関の部分が傾いているんですけれども、このあたりを写真に撮っていたら、あれと思ったら、中からのぞかれて、ここで勤務している人がいる。これは怖いなと思いました。

そんなような部分もありますし、それから、そのすぐ隣の部分が実は、この右下のところですけれども、テントが張ってある。これは文化会館の敷地内です。中には入れないからテントで生活しようということです。この理由には2つありまして、1つは確かに避難スペースが足りないということ。それから、もう1つは余震が怖くて家に入れない。建物に入れないという状況になってしまっているようです。そういうような方が結構いました。ちょうどこのところ、右上方になるんですけれども、向こうですから九州電力の方が来て、このテント村の部分でも避難生活がまだ続くから、電気をつけようということで、ちょうど電灯を灯すべく準備をしてくれているところでした。

それから、これは町の守り神なんでしょうけれども、木山神宮というところが、完全に破壊されて、右下に見ていただくように、奉納殿のところがおじぎしちゃっているんです。社が完全につぶれてしまっています。先ほどの田んぼの中を延長してくると、この100メートル以内のところに断層が存在することになります。だから、ほんとうにかなり直下の地震ということで、大きく破壊されたかと思います。

それから、これなんですけれども、建物が倒れかかっているんですけれども、下にキャンピングカーが入り込んでいます。左下です。建物の左下の部分を見ると、キャンピングカーが入ってしまっていて、これがどうも支えているみたいなんです。支えているところを持ってきて、さらに道路のほうを見てもらうと、ちょっと今、これから赤いマークが出てきますけれども、赤いマークのところを見ていただくと、ベランダが落ちかかっているんです。下の写真の丸のところを見ていただくと、これが道路に落ちかかっているんです。こんな状況のところを道路を通過せざるを得ない。私も3回ぐらいここを行き来したんですけれども、そのうち1回、信号でこのところで見事にとまってしまいました。そういうちょっと怖いところです。今が益城

町のところでは。

それから、阿蘇大橋が破壊された、これが南阿蘇村の地域です。ここのところ、真ん中のところが今、このときは写っている阿蘇大橋です。現在はこれは完全に崩落しています。ここも赤い線で示しているところが活断層の位置です。黄色の線で示しているところが私が歩いて調査した地域です。阿蘇村の、ちょうど川を渡ったところに河陽という地区もあるんですが、ここのところのアパートが完全に活断層の直撃を受けております。こんなふうに断層が全く真下にずどんと来ている状態です。このアパートは倒壊しなかったです。その下のほうにある、1キロかないかぐらい離れたところで学生寮が多く壊れてしまって、亡くなった方がいたという場所なんですけれども、東海大学ができてから、このようにアパート群が大量にできております。そこのところで、早くつくっちゃった部分が問題だったのかとは思いますが、ここのところでは、この建物が真下を通っているのに破壊されていません。

なぜかという、1つには、ここの画面で見ると、コンクリートのベタ基礎の建物になっています。そして、裏に行ってみると、こうなっているんです。注目していただきたいのはこの部分なんですけれども、川のところのコンクリート擁壁は非常に丈夫につくっている。そこのところにコンクリートのまま、建物の基礎がずれていったんですが、ずれていったものがそのままそのコンクリート擁壁にぶち当たっているんで、それ以上行かないようにコンクリート擁壁が守ってくれている。そういうことでこの建物は大きな破壊にならなかったということが見てとれました。

ところが、そのすぐ隣のコンクリート擁壁の上方の建物がこれなんですけれども、これは完全につぶれています。といっても、つぶれていないように見えるんですが、左端を見ていただくと、階段がついております。2階へ上がるための階段なんです。屋根へ上がる階段じゃないんです。こういうふうに1階部分が完全に壊れています。この下を見ていただくと、この建物の下をつくっているのはアスファルトなんです。コンクリートのベタ基礎にしていなくて、多分コンクリートで基礎やって、その周りをアスファルトで固めるという形だったので、非常に激しく動いちゃったのではないかと。

その隣の、これはほんとう建てて間もないと思うんですが、どちらも同じなんですけれども、ソーラーハウス。ソーラーパネルをこんなにべたべたやってあるんですけれども、完全にひっくり返ってしまっている。こんな状況。活断層の直撃を受けるとこういうことが起きるといったことがわかりました。

今回、見にいった活断層の中のちょっと特徴的な部分なんですけど、野島断層、それから、井

戸沢断層、東日本大震災と、それから、阪神淡路大震災で起きたときに動いた断層なんですが、そのとき、ここの下にあるようなすり傷がキュッと出る、そういう状況が全てあったんですが、この井戸沢断層というやつも、調べてみると、こここのところにすり傷があらわれるようなずれが起きています。

ところが、今回の益城町の畑の中をずっと探してみると、断層が、あるんだけど、断層の線状にキッと切れるような状況が何もないんです。そういうような状況がなくて、田んぼの中、畑の中を見てみると、地面がもぞもぞっとモグラがほじくったような、通った跡みみたいなものはあらわれています。でも、それ以外のものはほとんどない。あと、畑の中の道路についてはずれたという跡が明瞭に見えてくる。アスファルトやコンクリートのずれが見えるんだけど、畑の中だと、モグラがはいずったような状況になってしまう。これは何が原因なんだろうかということで、最初はなかなかわかりませんでした。

これは南阿蘇村へ行ったんですけれども、南阿蘇村へ行って、活断層があらわれているところなんですけれども、こここのところでも地面がこういうふうに亀裂が入っているだけで活断層がない。変だなということで、ここを活断層の位置としていいんだろうかと非常に悩んでいます。

結論として出てきたことは、あとは写真の分析をしながらわかってきたことなんです、こここのところはミドリカワキャンプ場という南阿蘇村のつくったキャンプ場なんです、この断崖絶壁をよく調べてみると、真ん中辺のところに溶岩の流れた跡があります。それから、一番下のところにも溶岩の流れた跡があります。この真ん中辺のところ。それ以外のところは何かとよく調べてみると、これは火砕流なんです。火山灰と、そのときに割れて入り込んできた溶岩の塊が一緒になってたい積している。そういうような状況なので、地面が固まっていないんです。非常に柔らかい状態が続いています。

益城町のところも歩いてみたら、崖崩れのところがありまして、そここのところでは、片一方、右側、右下の部分の路頭については砂だけです。それから、左側の部分については丸い石ころがいっぱい並んでいたり、泥があったりというような形で、これも固まっていないんです。実はどこも固まっていない。益城町が河岸段丘のところでしたので、下に大量の砂利と砂が貯まっている。それから、南阿蘇村については火砕流が貯まっている、固まっていない。だから、地震のときにざっと一気に地面が動くんですけども、下のほうで動いた部分を上に来る間に吸収してしまっている。だから、こういう、先ほど見たような地割れが生じているんだということが、後でわかったことなんです、そういうことのようにです。

さて、そんなような地震なんですけど、熊本地震と三浦半島をちょっと比べてみようと思えます。三浦半島、布田川断層という断層が今回において、その確率を計算式で求めると、0から6%というふうになっているんですが、三浦半島の活断層の30年以内に動く確率が6から11%ということで、その倍ぐらいの危険度がこの三浦半島には、今、現状としてある。そして、もう1つなんですけれども、東日本大震災で東のほうに地面がずれておりまして、その状況が今も続いているので、活断層が動きやすいという状況が今も現在、続いている。何か刺激があると、動くかもしれないということです。

それから、日奈久断層帯と布田川断層帯が今回は一緒に動いた、2日間の日にちがずれているんじゃないと言われるかもしれませんが、2日間の日にちというのは、私たちにしてみたら、1日なんです。1日でも変わらないんです。というのは何かというと、それだけの長いスパンの中で地震が繰り返して動いているということなんです。地震が起きている。

三浦半島の北断層群、衣笠断層、武山断層、北武断層と3つの断層があるんですが、この3つの断層を調べてみると、過去に一緒に動いたであろうという記録があるんです。衣笠と北武断層はいつも一緒に動いているという記録も残っているんです。そういうことからすると、今回と同じような連続した地震が起きる可能性があります。

それから、益城町と南阿蘇のところについては、今、お話ししたように、下が軟弱の地盤である。逗子が大丈夫かという、逗子は実は中心部は田越川が流れていますし、久木川が流れています。大昔はそこが深い溝で掘られていました。そこが今、どンドン川が氾濫するたびに埋まって行って、平らな土地になっています。ということは、逗子の街も、ここの益城町や南阿蘇村のようなことが起きる可能性が非常に大きいということです。

益城町の震度7、三浦半島の活断層が動くと、逗子市内も震度7ということになります。避難所には駐車スペースがない。ごみの処分場がない。これも向こうの村と一緒にです。南阿蘇村のほうはたまたまよかったことに児童不足で学校が次々閉校していた。その学校のグラウンドがちょうどいいというので狙われて、今、ごみの山になっています。

最後に地震への備えということで、今、お話ししているような災害リスク、皆さんのお住まいのところの災害リスクを知っていただきたいと思うんです。地震が来たときに、自分のうちにはどんなことがやってくるんだろうか。例えば今、話した田越川とか久木川の流域であったとしたら、そこは液状化が起きる心配があるところだということがわかると思います。それから、斜面の崩壊しそうなところに自分の家があるのかどうか。こういう問題も出てくるかと思えます。そういうのをまず知っておいていただいて、だから何をやるということはできないん

ですけれども、災害のときにはそういうリスクがこの土地はあるということを知って住むのと、何も知らないで住むのでは大きく違うと思います。

今回の益城町で聞いた話では、うちにこんなことが来るとは思わなかった。断層は知っている。知っているけれども、こんなところに、まさかというのがほとんど皆さんの回答です。

それから、先ほどもありましたが、建物が倒れてしまうと、避難もできない、救助もできないということになりますので、昭和56年以前の建物にお住まいの方はぜひ耐震診断と耐震補強をやっておいていただきたいと思います。耐震補強をしたら絶対に家は大丈夫なのか。大丈夫じゃないんです。震度6強になっても倒れないというのがこのボードなんです。倒れない。道路をふさがない。道路が通れるようにしておくというのが原則耐震補強というのはやっていますので、壊れない家じゃなくて、壊れてしまうと思います。けれども、倒れない。これが身の安全を守るために一番大事なことなんです。自分の命は自分で守るためにも家がつぶれないようにしておいていただくということが重要かと思います。

というような話で、多分時間が来てしまったと思いますので、ちょっと私の趣味の世界をやりながら、まだまだ暑い日が続きます。私の話はこれで終わりにしたいと思いますが、ぜひこの熊本城が復活してほしいと思います。

以上です。(拍手)

【東コーディネーター】 浅見さん、現地の生々しい映像等、ありがとうございました。最後のは百人一首ですか。ありがとうございます。

では、続きまして、国立保健医療科学院健康危機管理部部長の金谷泰宏様による講話をお願いしたいと思います。引き続きレクチャーがありますので、皆様、お手元の資料をごらんいただきながらお願いできればと思います。

では、金谷様、よろしくお願いいいたします。

【金谷】 皆さん、どうもおはようございます。国立保健医療科学院の金谷でございます。名前が長つたらしいんですけども、我々の機関は厚生労働省の研究機関であります。

先ほどちょっと浅見さんのほうで趣味の世界とありましたが、今日は私の趣味の世界で、僕の大好きな鳥獣戯画を出したけれども、これは何かというと、今朝の私と妻と子どもか。休みの日にまでどこに行くのみたいな話で、皆さん、今日はちょっとお忙しいところ、お休みのところ、こういう形で出てきていただいてご苦労さまです。ちょっと1時間半ほどおつき合いいただきしたいと思います。

今のお話にありましたけれども、熊本地震。いろいろな教訓が出てまいりました。これは実

は7月20日に政府が出しました熊本地震の反省なんですけれども、ここに書いていますが、大体、往々にして、県と市で仲が悪くて、情報の疎通がうまくいかないという問題がありました、今回もそれが出てきた。それから、もう1つは、これは今日はお配りしなくて申しわけないです。ここだけでございます。もう1つは、避難所の情報把握というのはなかなか難しく、やはり先般の熊本でも何百カ所も避難所が建ちますと、その情報を市が集めるのは非常に大変です。市の職員が総出で出ていくんですけれども、出た後は結局、皆様のところに渡す食糧の調整とかその辺をやる人がいなかったというので、食事が来ないという問題が今回、出てきたと思います。その意味では、避難情報の把握というのは非常に重要でありました。

それから、もう1つ、路地の問題です。先ほど浅見さんの話がありましたけれども、道路が20センチずれるだけで、幹線道路は麻痺します。私の実家は実は東灘区でして、阪神大震災のときには全部つぶれましたけれども、やはり道路は非常に、たかだか20センチでかなり、西からも東からも入れない状態でした。そうすると、やはり物資が来ない。来ないと、やはり避難生活が非常に困窮するということになります。ここにも書いてありますけれども、そういう意味では、市の対策本部はやはりありとあらゆる情報を持ってこないといけないということで、ただ人が少ないので、その辺は市民の皆さん、あるいはNGO、NPO、そういうところとの連携というのは非常に重要になります。

その際に、もう1つは情報をどうやって集めるかということなんですけれども、これは実は、我々、政府の研究機関で持っている情報を全部国で吸いとっていました。例えばこれで見ただくと、この青色のところが避難所です。ちょうど一番地震のきついのが益城、このあたりです。空港のあるところなんですけれども、ここの全ての道が途絶えて、大体このあたりにいらっしゃる避難者はおそらく物資が途絶しているだろうというのは大体見てわかっておまして、それぞれここに書いてありますが、災害時はやはり情報をいかにして集めてくるかというのは非常に重要になります。

もう1つは、熊本地震はまだよかったのは、携帯電話が通じています。その意味では、携帯電話はもちろん、特に若い子なんかでツイッターとかそういうのをやっていらっしゃるところはどんどん情報を外へ出して、それをマスメディアが受けて、ああ、大変ということで動きましたけれども、では、果たしてここはそれができるかどうか。我々が今、やっているのは、そういう情報が途絶したときに、どうやってたくさんの情報を集めるかというのも現在、政府で研究を進めています。NTTなりからパラボラアンテナを持った車を地域に持ってきて、小さな、Wi-Fiと申しますけれども、こういうスマートフォンとかを接続するような、そう

いうものをスポット、スポット、避難所に置いて、情報が皆さんに速やかに、上のほうにも上がるし、そこから皆さん方のほうにも情報が下るような、そういうふうなところを今、つくろうとしているところです。

今日は、皆さんの資料、ここからお配りさせていただいていますけれども、大きく災害時、大体これぐらいの4つぐらいの時期に分かれます。同じ避難所にいらっしゃっても、時期によって対応は結構変わってきます。最初の大体48時間から72時間ぐらいが超急性期と申しまして、いわゆる棚に挟まれた、あるいは、倒壊したビルの中に挟まれたとかいうふうな重傷患者さんたちを救うのが最初の72時間。それから、今度、落ち着いてきますと、いわゆる糖尿病とか高血圧とか、もろもろの病気を持った方の避難所における対応が中心になって。さらには、1カ月ぐらいになってきますと、メンタルヘルスの問題が出てきます。二、三カ月しますと、普通の、いわゆる母子保健でありますとか、子供さんの予防接種とか、あるいは、高齢者の方の予防接種関係、そういうものがスタートして、現在、我々はこの準備期ということで、これからいつ起こるかわからない関東大震災、あるいは、首都直下、そういうところに備えましょうということになります。

我が国は法律が3つあるんですけれども、一番重要なのは、こちらの災害対策基本法ということになります。この法律に基づいて市は災害時の準備をやります。誰がどういうことをするかというのをあらかじめ決めます。災害が発生しましたら、この災害救助法、これはお財布です。お財布握っているお母さんは県になります。そこは市からのリクエストに応じてものをどんどん渡していきます。それがこの災害救助法で、これはお財布になります。もう1つのお財布は、この被災地生活再建基本法というのがありまして、これは個人の商店、あるいは、ご自宅をお持ちの方々に対する、国ではなくて、これは県の持っている基金なんですけれども、ここからお金を出して、生活の支援を、いわゆる経済的な再建をスタートさせる。そういう3つの枠組みがあります。諸外国はこういうのはないそうです。先進国、アメリカでもこんな形にはなっていないというところがありまして、日本の場合はかなりここは整備されています。

それで、今日、皆さんでやっていただきます。では、避難所の中でどういうふうな対応をするかということで、少し説明したいと思うんですけれども、避難所の中でやはり一番困るのは弱い方。例えば幼児、妊婦さん、あるいは、病気をお持ちの方などについては、やはり非常に困ります。そういうの方々に対してやはり優先的に対応しようということで、そういう方々を災害時の配慮者というふうに位置づけています。それ以外に、最近言われていますのは、ここで、外国人の方になります。特に逗子とか、今日も結構外人の方、いらっしゃいましたけれど

も、日本語は当然わかりません。英語なら何とかでしようけれども、中国とか韓国の方ですと、なかなか英語をしゃべれる方も少なかったりとかして、やはりそういう方々は情報がないということで非常に困ります。そういう意味では、こういう国際都市の逗子市などは、やはりこういう方々も対応していかないといけないということになります。

それから、もう1つは、やはりこの中でも特殊な病気をお持ちだとか、あるいは、ご自宅に人工呼吸器、人工酸素、そういうものを使われている方がいらっしゃるかと思いますが、では、そういう方々を震度7が来た後にどうやって避難所までお連れするのか、非常に大変です。特に人工呼吸器ですと、これはカラーテレビぐらいの大きさの機械がございますけれども、では、これを持って避難所に行かれますかという話がありまして、そういうことについては日ごろから準備しないとはいけません。

ここにありますのは、山口県のつくっているそういう災害時要配慮者さん用のマニュアルです。これを下の山口県下のいろいろな市町村がこれを見習いながらつくっています。

もう1つは、ちょっと話が切りかわるんですけども、それは準備の段階。では、実際に災害が起こった後、どうなるかということで、ちょっとまだ熊本の情報はまだ集めていないんですけども、これは東日本大震災です。発災してから大体1カ月目、高血圧とか、そういうお薬を持っていらっしゃる方、自宅が津波で流されてお薬ありませんというので、非常にたくさんの方が受診されています。ここも多分同じかと思うんですが、海に近い方で家が流されてしまうと、お薬とりにいかれません。さらに、津波とかで避難所が半分ぐらい失われると、狭いところにたくさん行きますので、これを見ていただくと、いわゆるおなかが痛いとか、あるいは、せきだとか、そういう急性期の病気が大体一月当たり非常にたくさんあります。これが落ち着いてきますと、見ていただくと、特にお年寄りの方、私もそうなんですけれども、かたい、こういう上に1週間寝てみますと、当然腰痛になります。

それからもう1つは、ここに不眠症とありますけれども、ぐらぐら何回も来ますと、眠れません。特に体育館はただでもびよんびよん跳ねますよね。体育館は下の4つにスプリングが入っていますので、そこを木で押さえつけないと、揺れます。その意味では、避難所に長くいらっしゃると思いますと、特にこの不眠症を訴える方が出てきます。不眠症を長期放置しますと、鬱病。鬱の先がいわゆる自殺ということで、そのあたりいかにしてこういう不眠症とかを解決しないとはいけないかというところもあります。

それから、逗子市であれば、何%が高齢かというのは大体わかるんですけども、これは東日本の石巻市なんですけど、糖尿病と高血圧がやはり非常に多いのと、それから、お子さん方、

アトピーを持っている方、それからぜんそくを持っている方、こういう方々は通常よりもたくさん受診します。その意味では、日ごろのものの極限が避難所だと思っていただければいいと思います。日ごろでもできないところは、こういう避難所になると、もっとできません。

そういう意味では、どう対応するかというので、これは我々、全国の保健所の職員に教えているんですけども、大体72時間ぐらいまでに、非常に手がかかる方々は安全な地域に出しましょう。人工呼吸器とか、あるいは人工透析とか、そういう方々については外に出すしかない。その上で、残った方、いわゆる、ここに書いてありますけれども、先ほどの災害時要配慮をしないといけない方々については、やはり刻一刻変わる状況を押さえないといけないということで、日本医師会とか、そういうチームが回ってきます。そうしたときに、逐一こういうチームに情報を流していただいて、こういうチームは保健所とかに情報を流していきますので、どこそこの避難所でたくさんのそういう支援が必要。幼稚園を増やしてほしいというところとつないでもらう。こういうふうには教えてはおります。だけれども、皆さんのほうの努力でなるべく環境をきれいにしたほうがいいというのはあります。

今、ここに出しましたのは、その意味で、避難所を回すに当たって、大体どの辺までやっていればいいのかというところがあるかと思いますが、内閣府がこのスフィアプロジェクトというのを広げています。皆さんおうちに帰られて、お子さんとかいらっしゃれば、ちょっとインターネットで調べてと言ったら、こういうのはピピって出てきますので、これ自体は見られます。ただでインターネット配信されています。

これは何と申しますと、これは国際共通です。日本だけじゃなくて、韓国の人、中国の人、アメリカ、みんな共通で最低限これだけをやれば大丈夫というところの最低ラインが書かれております。やはり結構国際化してくると、下手をすると、いろいろ外国人の方々から指摘を受けます。たまに受けると、やはりそういうのは国際的によろしくないんで、おもてなしの国でございまして、最低限頑張りましょうというところがここに詰まっております。これは外務省がつくって出しています。もしよろしければ、ごらんになってください。

そこで一番重要なのは、おトイレです。先ほども浅見さんの話がありましたけれども、廃棄物、その中におしっこかうんことかあります。食べれば出ます。ここに書いてありますけれども、大体どれぐらいのおトイレを準備すればいいのか。学校ですと、皆さんのところは大体1,000人ぐらい避難されてくると思います。そうしたときに、通常はそういうものは一時滞在の避難所と呼んでいますけれども、それが50人に1つぐらいおトイレが要ります。だから、1,000人いらっしゃれば、仮設トイレが20基は必要です。そのうち男性と女性の比率でい

くと、大体1対3ぐらい。女性だとやはり座っての形になりますけれども、男性も同じものを使うとして、5対15ぐらいで分けておいたほうがいいといわれております。

これは実際に熊本の写真です。朝、男女共用です。全部で1,000人の収容のところにおトイレは10基しかありませんでした。朝から並びます。こうなってくると、足の悪い方とか、お水を飲まないようにしようとか、行きたくありませんとかというふうになります。そうなる、また非常に困ったことになります。水は1日、1人当たり7.5リットル要ります。特に飲み水は3リットル。ペットボトルで3本は絶対に要ります。これを下回ってくると、体の中が少し乾燥してきますので、血液が固まりやすいとか、いろいろな問題が出てまいります。そこで、水を飲まないとうなるかということですが、これも熊本の写真ですが、飲料水、それから、うんこをしたくないので、食事減らそうということになると、摂取量が減ります。減ると、夏場ですと脱水します。特にものを言えない1歳、2歳のお子さんとか、あるいは、ご高齢の方とか、非常に注意が要ります。それから、もともと高血圧とか糖尿病で心筋梗塞あるいは脳梗塞の既往のある方は、やはり水がないと、より起こしやすくなる。エコノミークラス症候群もこの間の熊本でもご存じのとおりです。多分この辺の皆さんは車をお持ちかと思えます。たくさん集まってくる避難所には入りたくないですね。外で入ります。そうすると、水を飲まないで、やはりこういう形で症状が起こりますが、さて、なった後に収容できる病院があるのかどうなのかというのが問題になります。

もう1つは、お食事の問題ですが、これは国際基準でこれぐらい。カロリーでいくと、大体2,000キロカロリーぐらいはとりましょうといわれてはおります。日本ではどうかというと、これが日本の基準です。少し少なくても、世界標準からいくと、日本人だと大体2,000キロカロリーぐらいとれば良いでしょう。特に重要なのがビタミンCです。ビタミンCは野菜しかとれないのと、逃げ足が速いとか、新鮮なので、維持できません。その意味で、毎日ちよつとずつとらないといけないものですから、1週間野菜なしでは体には非常によろしくありません。そういう意味では、避難所の管理の方、あるいは、市の防災の方、食事のほうはしっかり回さないといけないということになります。

しっかり回して、さらにその上で考えないといけないのが特殊な病気をお持ちの方。後でお話ししますが、潰瘍性大腸炎って難病に指定されていますけれども、食パンとかかたいものを食べると、下痢を起こします。特殊な飲料水みたいなものがあるんですけど、それを飲まないといけなかったりとか、あるいは、アレルギー、食物アレルギーのお子さん。特に小さなお子さんがいるような学校ですと、今、給食を食べて命を落とす時代です。そういう

な子もいますので、そういう子についてはアレルギーのないお食事を出していかないといけない。そういうものは数が少ないので、いざというときは市から県に言って、調達をかけないといけないという形にもなります。

ちなみにこれは阿蘇の経験なんですけれども、先ほどもちょっと例え話でお話ししたんですけども、災害時、行政だけはもう無理なので、その間を仲立ちしてくれるのは、いろいろな団体があります。特にお食事ですと、日本栄養士会というのがいまして、彼らがいろいろな企業からそういうものを持って、調整をしてくれたりします。これは阿蘇では、保健所のほうにそういうものを持ち込んで、市からのリクエストに応じて対応するというやり方をされました。

では、災害時、特に避難所でどういう問題があるかということ、実は避難所でも、学校ですと、キッチンが理科室とかにありますよね。あるいは、食堂とかそういうものがありますと、夕方なんですけれども、これを見ていただくと、キッチンとかがあるところだと、大体ご飯が出せるんですけれども、そうでないところは市、自治体からの弁当の供給ということになります。市が手いっぱいだと、お弁当なんかは来ないので、その意味では、やはり日ごろから自分たちの避難する場にそういうキッチンがあるかどうかというのは非常に重要です。

それから、もう1つは、ボランティアでも結構なんですけれども、栄養士の資格のある方、そういう方に出しているものを見ていただいて、だめよ、もうちょっと野菜を入れたほうがいいのか、そういうふうに指導してくれるところが、実は、これは岩手のA3部分の避難所の状況なんですけれども、ちゃんと栄養士さんから見てくれているところはいつでも野菜が出てきたそうです。けれども、ないところは、ほとんど1週間ぐらい野菜が来なかったともいわれています、その辺もあらかじめ準備はしましょうということになります。

そのために、皆さん、これからマニュアルつくりましょうといったときに、参考になりますのは神奈川県の川崎市がつくっている避難所の運営マニュアルです。こういうマニュアルがありますので、いいところどりではないですけども、自分たちの街に合った形でつくっていただければいいのか。特に埼玉県ですと、結構若い方が多いというのと、女性などに対しても、やはり化粧室に小さな鏡とか、あるいは、女性用品とかを置いておくようにしてくださいというふうに指導しているようでして、多分逗子市も結構若い方、特に夏場で、今ぐらいだと、おそらく旅行客の方とかも多いと思いますので、そういうようなものも含めて、こういうものも準備しておかないといけないでしょうというふうには私も思います。

このあたり、場所によってはやはり大分違います。ビジネス街であるとか、あるいは、郊外の住宅地、あるいは、ここのように、結構海水浴場も含めて、わりと外からの流入が多いとこ

る。それらによって避難所にどういう方が来るかどうかわかりませんので、そういうところは日ごろから準備をしておく必要があるのかと思います。

以上、ちょっと私のほうからざっと、これから皆さん方にやっていただくテーマの前振りを少し早口ですけれども、しゃべらせていただきました。

これから、皆さんにやっていただきますのが、避難所運営ゲームと申しまして、皆さんの机のほうを見ていただけますでしょうか。学校の敷地を模写した地図が置いてあるかと思います。その中に、これからちょっとやっていただこうと思います。まず、今の現状ですけれども、日時的には7月23日ということで、今日、午後3時ぐらいに発生した相模沖地震。ごめんなさい、昨日です。昨日、地震があって、ライフラインが効かない。皆さんは体育館に避難することで、これから1カ月皆さんの机の上の体育館で住民を支援していく。机の上に束になったカードがありますが、それが住民です。それを読んでいっていただきます。中には、どういう意味なのか、観光客の皆さんも入っています。それをそれぞれ並べていっていただきます。

その前に、各テーブルで、今日は学校区の方がいらっしゃっているかと思いますが、1人、司会の方を決めてください。その場でこんな感じで回します。これが今日、お配りしている地図ですけれども、ちょうどこんな感じで学校、ステージがあります。見ていただければ、こんなステージの部分がついて、こんな感じだと思ってください。住民がどどっと入ってきています。我々のほうでどこに座っていただければ適切かということこれからやるんですが、後でちょっとカードを見ていただければと思うんですが、カードにいろいろな説明がついてあります。ちょうどこれがお配りしている体育館になります。入口がこう入ってくる。これが入口です。ここ全部入口です。こちらのほうにいろいろなおトイレがあり、それから、職員室があり、クラブ室がありというふうになっておりまして、一応、この中のものは全部出して皆さんのほうで自由に使えるというふうにご覧ください。おトイレは水がためなので、使えません。こういうところですよ。

そこに、カードというのがこんな感じで、大体100枚ぐらいあるかと思います。例えばこの人、シュウさん、全部で4人家族で、ここに2枚だけ挙げていますけれども、奥さんが32歳、旦那さんが33歳、この方は中国籍、日本語は日常会話程度ということで、この方は中国語も日本語もしゃべれる。そういう意味では、中国の方がいらっしゃれば、この人に言えば、ある程度日本語で返ってくるみたいな、そんな感じで活用してください。

それから、この下、特に世帯番号39番のキシさん、女性、32歳。妊娠後期34週です。今にも生まれそうということで、一応車で避難されてきたので、このカードを引かれた方は、

この人をどこに置くというのをみんなで相談しながら決めてください。生まれる場所にするとかって。産むにしても、自分で産めませんので、誰がちょっと見ておかないといけないとかというのを、今日、みんなでいろいろしゃべりながら配置していただきたいと思います。

時間が大体30分を用意しようと思っています。こんな感じで、済みません、ここに出していますけれども。言い忘れました。このカード自体が1人の専有面積が3.7平米。大体坪でいくと2坪ぐらいですか。2畳。畳2枚分ぐらいの大きさのカードになっていまして、ここのマス目が大体5メートル、5メートルです。そこに置いていただくとということです。それから、このカードのこういう赤で書いているのが、今、お話ししましたような個人個人の情報が書いてありますので、私の前振りの資料も見ながら、どこに置くかというのを各テーブルで検討しながら置いていただければと思います。よろしいでしょうか。

時間、これから30分かけて皆さんで並べていただきます。今、10時50分ですので、11時20分まで皆さん方で相談しながら、そのカードを全部並べ切ってください。よろしいでしょうか。私はここにテーブル回っていきますので、何かありましたら私のほうに言ってください。よろしいですか。テーブルの上に地図と。封筒が置いてあるんですけども、それはまだ開けないでくださいね。皆さん、封筒は開けないで。それは秘密ですので。30分終わった後のびっくりするものが入っていますから。よろしいでしょうか。

(グループワーク)

【金谷】 はい、皆さん、お疲れさまでした。ご苦労さまです。きれいに並べていただいて、かなり手際よく回答していただけたかと思います。

では、順番に発表していただこうと思います。まずは、ここのグループ1ですか、こちらから、では、済みません、司会の方、ここに出しておきましたので、簡単にコメントをお願いしたいと思います。後でイベントカードを配りましたけれども、それに対してどのように対応されたか、よろしく願いいたします。

【市民】 問いは出てくるんですか、出てこないんですか。

【金谷】 済みません、問いは出てまいりませんので、例えばペットの問題だとか、そんな感じでまとめていただければと思います。

【市民】 逗子小学校区のキムラと申します。

避難所の管理者から3人の子供が、ここのところ話もせず、昨日から食事もとらなくなったと保健師が相談を受けているという問いに対して、子供の遊び相手を探す、ボランティアが相談に乗るという回答を得ております。

【金谷】 では、そうしましたら、結構多うございますので、簡単に2つずついきましょうか。

【市民】 女性、42歳。それから、母67歳がトイレの場所がわからず、体育館の中で放尿するのと、対応に苦慮していると相談があった。これに対して、トイレに行く出入り口が近くの場所に配置。おまるを用意して提供。カーテン等、間仕切りを配慮しますということにしております。

【金谷】 ありがとうございます。2つ、今、読み上げていただいたとおり、まずは子供さんで孤立している。それから、高齢者でトイレということで、一応出口のそばに配置して、カーテン、それから、おまるということにされていますけれども、済みません、おまるはどの辺に置かれますか。今、いらっしゃる場所、それとも、玄関先ぐらいに置くような感じになりますか。

【市民】 問いにある親子がどの位置にあるかということも1つ要件としてあると思うんですが、別途、教室がありますので、そちらのほうに。

【金谷】 教室ですね。教室利用ということですね。ありがとうございます。

1 グループはお部屋のほうにそういう方を入れて、おまるを置いてカーテンをして対応する。ありがとうございます。

2 グループ、いかがでしょうか。重複しているものは外して、2つ課題に対して対応を考えていただければと思います。

【市民】 2グループ、沼間エリアです。

では、重複しているものを除いてといったところなので。まず、女性、18歳、おなかの痛みを訴え、救護班が来るまでに時間がある。何とかならないかという相談を保健師が受けたといったところです。

別個、部屋で、救護室は実はこちらの班ではきちんと設けて、けがの方、ご病気の方も対応していたんですが、それとはまた別個、休養室。一時的な急性期の方、もしくは困られた方の部屋をご用意して、そちらのほうにご案内して、お医者さまの対応を、来るのを待とうかという話を話し合いました。

もう1点が、避難所の管理人さんより、72歳、男性がこの避難所に運ばれてきてから、41歳、女性が介護していたが、女性のお母様が寝たきりになってしまい、現在、対応することが難しいと相談があったといったところです。それは、避難所内でお手伝いを募集して、何名かお手伝いしてくださる方を募集して、介護が必要な方の部屋を別個、教室に設けておるんで

すけれども、その手伝いといった部分でお願いしていくか、経験者などがもしいたら、ぜひお願いするように呼びかけしていきたいといったところです。

以上です。

【金谷】 ありがとうございます。ここは女性で腹痛の方が出てきたということで、通常、救護室は設けているけれども、それに付加して休養室ですか、急性期の対応ということで部屋をつくられた。休養室は体育館の中のほうに。

【市民】 また別途、職員室を。

【金谷】 なるほど、職員室をつぶして、そこを休養室ということで。ちなみにこの女性は妊婦さんではないですね。

【市民】 妊婦さんではなく、明記はされていません。

【金谷】 ないですね。はい、わかりました。

それから、もう1つは高齢者用ということで、介護室を設けて、さらにそこに、中の人で支援してくれる方を募集していくという対応です。ありがとうございました。

3グループ、いかがでしょうか。重複しているものを外して、新しいものがあれば、それをお願いします。

【市民】 受付を設置して部屋分けをどうするかという話し合いをまず最初にしてから、このカードをよく見て、それぞれ分けました。

それから、イベントカードですが、男性、68歳から透析の予定が2日後に入っているが、医療機関が閉鎖されているために、受診できないでいる、何とか透析ができる病院を探してほしい、車の手配もお願いしたいとの相談があった。ということで、本部に情報を集約して、インターネットで透析可能な医療機関を調べてもらって、ボランティアセンターに車の手配を依頼するというので、本部の医療チームというのを隣づけてつくりました。

あとは、女性、65歳から、孫の2歳の女兒が昨日から全身のかゆみと発疹を訴えており、母親がいないため、対応がわからないとの相談があったというので、5人家族で避難してきていました。おばあちゃんのつき添いで2歳の女の子と医療チームでつき添いを対応してもらうということです。

【金谷】 ありがとうございます。なかなか難しい問題ばかり処理していただいてありがとうございます。透析が必要な方、多分いると思います。このチームは一応本部を設けて、そこに情報を入れて、車の手配はボランティアということで。ちなみに本部はどの部屋を使われました。職員室かどこかを。

【市民】 職員室。

【金谷】 職員室ですね。ありがとうございます。職員室を使われたということ。それから、2歳のお子さん、このぐらいですと、やはりアトピーとかがということで、そこは人をお願いして対応してもらったということで、うまいぐあいに処理していただいた。ここも本部を設けてうまくマネジメントしたということですね。ありがとうございます。

4グループ、いかがでしょうか。一応、1、2、3とって、まだ出てきていない課題がございましたら、まずそれに対して2つお答えいただければと思います。

【市民】 こういうふうになっていたんですけれども、私のところでは、まず、本部みたいなものをつくって、お医者さんとか何か、もし本部のところに来てもわかりにくいので、特殊な、できないものは、荷物か何かじゃなくて、お医者さん絡みとか、難しいのは全部本部任せにして、そこへ全部持ってくるような形にしました。それと、本部というか、その場所として、入口近くに情報を全部集めるために設置しました。だから、みんなその辺がやることにしましたので。

それと、そのときに手があいている人が、ボランティアスタッフでお手伝いの人と、それからお医者さん関係と、全部そこで管理するように一まとめにしたので、難しいのは個別になるべくしないで。それと、入口近くに緊急性のある人は、一ところ固めて。

それから、ちょっと今のカードとはずれちゃいますけれども、外人さんは外人さんで一部屋にして、通訳の人も少し日本に長くいる人はできるので、外人さんは外人さんを通してやれじゃないけれども、困ったときは本部じゃないけれども。そういう形にしましたので。個別的にはそんなときにはなかなか無理だと思うんです。だから、緊急性と、情報という形で、本部で流れをつくろうかという形にしてしまいました。

【金谷】 ありがとうございます。いろいろ今回、イベントカード渡しましたけれども、この班は一応本部という形で、そこで人も情報も全部集約。その中で、入口に近いところには緊急性の高い方を置く。それから、外国の方については1つに集めて、通訳的な形を置いて、ここで処理できなければ、また、本部に持っていくという形ですか。

ちなみに本部は職員室ですか、それとも。

【市民】 いや、そこまで設定していない。その場所がわからないので。とりあえず本部をつくるということで、さっきと同じように。

【金谷】 つくるということですね。決めてということですね。ありがとうございます。

5グループいかがでしょうか。出切っていればそれで結構でございます。なければ、新しい

イベントに対しての回答とお願いしたいと思います。

【市民】 では、5グループですけれども、今、4グループのほうからも話がありましたように、私たちもまず、人がだーっと入っていきますので、とりあえず中に入れました。その後、重篤度、緊急度に応じてグループをつくって再配置をした後という前提の中でカードをそれぞれ仕分けしたというところです。

似たようなものがあってので、それは除きますと、乾パンを我慢して食べたけれども、吐き気がするののでどうにかしてくれという話がありましたが、これについては適宜、アレルギーの症状とかはないのかという形をもう1回確認した上で医師の診断に誘導するということになりました。それから、同じくアレルギー絡みですけれども、避難所にアレルギー患者が多くて、盲導犬を出してくれと言われたと。盲導犬も中にいらっしゃいますので、盲導犬は生活に必要な場所ですので、とりあえず別室を設けて今後のことを考えるということで、まず問題点をクリアしましたけれども、その後、盲導犬についてどう対応するかというのは今後の協議ということで、課題として思っています。

最後の1つが、薬が切れましたが、もらった薬がいつもの薬と違う。これでは飲めないというご意見をいただきました。メルカゾールというのと、それからプロパジールというのがともに同じような薬で、若干効能が違うらしいので、私どもの判断としてはそこで判断するのではなくて、正しい判断に誘導するのが仕事だと思いますので、医師か薬剤師さんのご経験のある方をまず探して、調べてもらうように動きます。違う薬であれば、救護班が間違えたのであれば、そこは救護班に確認するというのを対応策といたしました。

まず、基本としては、私たちのところでは、正確な情報をまとめて、必要なところに適宜提供して救助をもらうということで、私たちの中で全てできると思っていないので、その辺の仲立ちがとめどなくできるようなことを皆さん心がけて考えていただいた結果が今の結果だと思います。

【金谷】 ありがとうございます。実は5班はわりと早く全部配置が終わってしまっていて、そういう意味では、十分対応を考える時間があつたのかと思います。やはりここでは4班と同じ、緊急度に応じて中を配置がえ。さらには食事等については医療チームに持っていく。今のお薬もそうです。自分たちで判断しないで、そこは専門家に持っていくようにする。そのためには情報集約の場を設定するということ。

それから、多分全チームに盲導犬の方のものがあるかと思うんですけれども、これは別室のほうで管理する。1グループでも言われていましたけれども、犬ですよ。同じ犬でも盲導犬

の場合は、やはり絶対不可欠ですので、どこに配置するかというのは難しい話ですけども、その辺はあらかじめルールをつくっておく必要があるのか。座敷犬とかもどこかほかのグループの中に入れておいたんですけども、盲導犬と座敷犬と一緒に入れたら、けんかするののかという話もあるんですが、その辺、別室のほうで入れるんでしょうけれども、ただ、盲導犬はないと障がい者の方はやはりどうしても困りますので、その辺の扱いについてはよく調整しなければいけないかもしれません。ありがとうございました。

最後、6グループ、いかがでしょうか。皆さん、どんどん話し合ったので、言うことないかもしれませんが、よろしく願いいたします。

【市民】 6グループでは教室を3つ開放していただいているので、その3つの教室をサロンのお部屋、勉強のお部屋、それから、緊急の隔離室というふうに設定させていただきました。それで、急に食べ物で吐き気がしたり、それから、インフルエンザが発生したときには隔離室に入ってもらって、医者の手当てなどをしてもらおう。それから、サロン部屋、談話室というのは、例えば盲導犬の方、ご家族は、申しわけないけれども、夜寝るときには器具室に入っていたくんですが、昼間はサロンのお部屋に出てきていただいて、皆さんと交流してもらおうというようなことに使いたいと思います。もう1つの勉強部屋や親が見つからない子供たちと、それから、まだ学校が開設されていないので、そこで昼間は勉強部屋で子供たちが遊んだりするということに使いたいと思っています。

以上です。

【金谷】 ありがとうございます。ほぼ優等生の回答で皆さん方、フォローしていただけるとういことと思います。今、ありましたけれども、この教室の1つをサロンに使う。これは極めて重要でございまして、先般の東日本大震災でもサロンを設けて、そこでご高齢の方々、あるいは障がいのある方は日ごろそこを使っていた。それから、もう1つ、子供さんの問題ですけども、勉強部屋を設ける。これも非常に重要です。ストレスがたまりますので、その意味では1つの部屋にまとめて、そこで遊ばせてあげるというのも非常に重要であります。隔離室を最初から設けていらっしやったので、おそらくその意味では、対応も後々、イベントカードが出ても十分に機能したのではないかと思います。

その意味では、今日、6班やっていただきましたが、市長、極めて皆さんレベルが高いので、先般同じものを山梨県の入庁したての保健所の職員にやらせたんですけども、これは実は最初の配置がまずいと、イベントがどんどん悪くようになっているんです。県庁の職員でもうまくいかなかったことが半分ぐらいありましたし、30分でまとめられなかったのが2チームほ

どありました。その意味ではさすがベテランでいらっしゃるのかと思います。

これをできれば皆さんの学校の図面を使って、ミニチュア、今日はカードを渡しましたけれども、赤と黄色と緑ぐらいで15歳未満、あるいは、成人、高齢者と分けて配置して行って、どこが問題かというのを見ていただけるといいかと思います。今日もいろいろ回答がございましたけれども、実際これを動かすとなると、非常に大変です。やはりその意味でも、日ごろから準備していただいて、あとは老人のほうは市と調整としながら、いざこういうふうに動かしましょうというふう調整されるのがいいのかと考えております。

では、皆さん方、今日は1時間半ということで、密な訓練、どうもお疲れさまでございました。(拍手)

では、マイクをお返しします。

【東コーディネーター】 ありがとうございます。とても興味深いお話をより深く、ありがとうございました。

では、時間も残りあとわずかにはなってしまったんですけども、ぜひ市長からも感想、コメントをお願いします。

【平井市長】 皆さん、大変お疲れさまでございました。それぞれのグループがほんとうに知恵を出し合って、とても素晴らしいワークショップになったかと思いますが、私の話よりも、これはぜひ聞きたいということがあったら、先生がいらっしゃるの、質問したい方、どうぞ。

【市民】 逗子小避難所運営会のナカムラと申します。

先ほどの前半の説明のときにも、川崎市や山梨県さんとかの自治体の避難所運営ガイド、マニュアルの説明がありましたけれども、今日参加した人も皆さんこのテーマでいい勉強になったと思うんですけども、本番の避難所運営というのは、権限は市と、市役所と、あと施設管理責任者で、逗子市も立派な避難所運営マニュアルというのが三、四年前にできているんです。今日のこの訓練の前提にその関係者、今日集まった方は本番で避難所ができた場合に活躍する方だと思うんですけども、その方たちは基本になる逗子市の避難所運営マニュアルを理解しているというか、知っていないと、みんな今日のテーマでこれやれるという人はいませんので、その存在を皆市民に知らせたほうがいいと思うんですけども、どうお考えでしょうかということなんです。

【金谷】 極めて重要であります。実は、我々、保健所の職員でも自分のところの自治体の、県の防災計画、あるいは、市の防災計画を知らないところが多いです。その意味でも、市民の皆さん方だと、おそらくそこそこつくっております市の防災計画によって書かれているとこ

ろは多分絶対に守らないといけないと思います。ただ、これはこういうふうな図上演習をやることで、不ぐあいもあると思います。その不ぐあいをまた自治体に返して、ここをこう直したらというような形でやはりくるくる回していく必要があるのかと思っています。

その意味では、国のレベルでももう1回避難所対策は見直しましょうと言っておりますので、今日はせっかく市長もお越しでございますので、適宜そこはやりとりをして直していくというのが重要です。貴重なご意見どうもありがとうございました。

【市民】 済みません、ちょっとお尋ねなんですけれども、熊本地震でよく言われていました福祉避難所につきまして、逗子はそれがあるのか。あるのであればどこなのか、前もって知っておいたほうがいいのではないかなと思うんですが、それはいかがでしょうか。

【平井市長】 福祉避難所は基本的には特別養護老人ホームが設定されているので、今、市内は3つ。あと、障がい者の施設で2カ所。介護系は特養が3つで障がい2つという5つの福祉避難所になっていますので、ただ、そのキャパシティとか、あるいは実際その緊急度とか必要度に応じて、誰がそこに優先的に入っていただくかという、そこまではまだ多分皆さんとちゃんと詰め切れていないのではないかなと思うので、それは課題の1つかとは思っています。

ほかにはいかがでしょうか。では、そちらの、お二人順番で。

【市民】 避難所のことについて伺います。ちょっと防災課のほうでコピーさせてもらった資料があるんですけれども、避難所が合計で35カ所がありますけれども、逗子の人口が5万8,000ぐらいですね。その収容人数が2万113人ということなんです。私は山の根なので、山の根親交会館というのは一応入っているんですけれども、25名。しかも水没する地域の網印なんです。なので、今後、避難所の数を増やしていくか、それについてどういうふうにお考えでしょうか。

【平井市長】 避難所の数。基本的にキャパシティは施設の限界がありますので、熊本でも皆さんご存じのように、結局、車中で過ごす、あるいはテントをどこかスペースを見繕って、そこで生活するとか、いろいろなケースが出てくると思いますので、それは災害の規模によって全然違うので、今の最悪の想定で、避難者が3万人ぐらいということなんです。したがって、今、公共施設だけでは当然収容し切れないので、そこはその状況に応じてやるしかない。ただ、少なくとも、いわゆる災害弱者である方をどうやって優先して、命なり生活を守るかということを時間の経過とともに多分いろいろと臨機応変に対応しなければいけないのではないかなと思います。

先ほど1,000名ぐらいという話がありましたけれども、それを超えた場合にはどうするの

か。あるいは感染症が蔓延したときには移動ということも。熊本でもありましたよね。避難所があまりにもあふれちゃって、移動してもらおうというようなことを采配しなければいけないというようなこともあったので、その辺はほんとうに課題はまだまだあるというのが実態でございます。

【市民】 熊本地震ときに、最初、物流は全面ずたずたとまってしまって、高速道路、鉄道、みんなとまったわけです。ただ、食べものとかはすぐに集まったみたいですけども。逗子の場合は、やはり鉄道とか道路が使えなくなると、孤立すると思うんです。そのときに津波の被害がなければ、やはり海上ルートというのも非常に有効な手段だと思うんです。そのときに今は、もし逗子が使えとしたら小坪港だと思うんですけども、あそこでどれぐらいの大きさの船が出入りできるのか。そういうのをあらかじめ考えておかないといけないのかと思うんですけども、もしそれを考えてあるのであれば、紹介していただければと思います。

【防災課長】 小坪港はご指摘のとおり、大きな船舶は入れませんで、葉山港が指定の港になっております。ですから、葉山港のほうに大きな船舶は逗子のここに入って、そこから輸送するような形で今、考えております。

【平井市長】 もう時間が過ぎているんですが、ではあとお二方。いいですか、ちょっと延びますけれども。では、どうぞ。

【市民】 避難所運営のことではないんですが、冒頭の説明でありましたように、情報の収集というのは被害情報の収集が一番大事だという中で、逗子市が、基本的なことがわからないので、申しわけないんですけども、消防本部とここが分かれていますので、その対策といいますか、災害対策本部はこちらにできるんでしょうか。その辺のことだけちょっと教えていただければ大変助かります。

【平井市長】 災害対策本部はもちろんこの市役所が機能していれば、ここに設置されて、当然本部員の中には消防長も入って、消防の情報も逐一本部のほうに吸い上げられた中でいろいろな判断をし、指示をしているということになっています。万が一市役所がつぶれてしまった場合には、消防署が災害対策本部の第2の場所。その消防署ももしだめだった場合には今は沼間のコミュニティセンターが第3の災害対策本部の設置予定場所です。したがって、そこに太陽光で蓄電もできて、一応本部機能が賄えるようになっています。基本的には消防との関係は常に本部で情報が共有されて、指示が回るということになっております。

もうお一方。

【市民】 高齢者とか障がい者とか介護が必要な方、要配慮者といいますか、そういった方

の情報というのは、各自治会に任されているのか、それとも市として何か対応しているのか聞きたいです。

【平井市長】 いわゆる災害時要援護者ということをどうやってこれから課題を解決するかというのは非常に大きな課題です。一応対象者の情報システムは今、市のほうが今年度、いわゆるコンピューターシステムを入れて、例えば障がい福祉課とか介護保険課とか、そういう認定を受けている人の情報が常にタイムリーに更新できるようなシステムは一応できつつあります。

ただ、結局まだ手を挙げていただいている方が1,000名ぐらいです。私は要支援の人なので、とにかく災害時は助けてくださいというのを手挙げ方式は、大体3,000名ぐらい対象者がいるといわれている中の1,000人ぐらいです。ただ、それもただ手を挙げてもらっているだけなので、ほんとうに災害時に誰がどうやってその人を守るか、あるいは、避難所に移動してもらおうかということは、個別の支援プランというのをつくらなければいけなくて、これはまだなかなか手が回っていませんので、これはまさに地域の皆さんとどうやってこれをつくっていくかというのをこれからやらなければいけないということになっています。

プラス、2,000名の方は手も挙がっていないので、行政としては把握しているんですけども、本人にその意思表示がないというのも課題です。それもちゃんと掘り起こして、行政が持っている情報とご本人の意識というのをちゃんと共有しておかないといけません。それをさらに地域に落とし込んで、では、この人をどうやってみんなで守っていくかというのを一つ一つつくり上げていかなければいけないというのが現状です。

時間が。では、最後、1人だけ。

【市民】 済みません。またちょっと的が違うと思うんですけども、災害になったときに、大きな災害のときには避難所というのはできているんですけども、どこ見てもがれきの山なんですけれども、あれをどかすというのは残っている人が、いろいろな財産の問題でややこしいんですけども、逗子の場合、池子の森自然があるんですけども、あれだけ広い土地を避難所に、コンテナハウスみたいに、そういうことをしていただきたいという気があるんですけども。

家がないから、木が倒れていても、どかせば簡単で、道も広いし、あれだけのスペース、自然は自然でいいんですけども、まちなかで何かやろうと思ってもぐじゃぐじゃで、あの広いスペースを何かそういう形というのは、がれきの中でやるよりもせつかくあのスペースだしというのは検討していただけないかと思うんですけども。

【平井市長】 今、池子の森自然公園の緑地エリアの部分は広域避難場所にはなっています。したがって、緊急時にはあそこの久木の共同グラウンドのときの扉がちゃんと開けられるようになっていて、そこからが一つと避難してというのはできるようになっているんですが、ただ、その後、今、おっしゃったようないろいろな物資であるとか、そういった建築廃材であるとか、そういったものをどう扱うかというのは、その場所にはなっていないです。もちろん米軍への提供地なので、何がどこまで可能かというのは、まだそこまでの詰めたものには至っていませんので、今のところ、市としてはいろいろなほかの市の中で解決をその都度判断して決めていくということになります。

それでは、大体時間も多少過ぎましたので、最後に締めさせていただきますが、今日、それぞれの小学校区の皆さんがこの図面を見ながら配置を考えていただきました。おそらく、せっかくこれをやったので、ほんとうはそれぞれの判断基準、考えを持ち寄って、先ほどサロンをつくったという話がありました。それはなかなかほかでそういう発想がなかったということもあるし、例えば妊産婦の方を教室にまとめたり、あるいは外国人の方を教室にまとめるとか、あるいは入口に近いのはどういう人たちかとか、いろいろな議論があったと思うんです。ですから、市がつくっているマニュアルというのはおそらくそこまではない。

実際に避難所が開設されたときに、どういう人をどういう場所にいてもらうのが一番よくて、何か緊急事態があったときにどう対処すれば、より運営がスムーズにできるのかということも、これからぜひ皆さんで協議しながら、今、5個の避難所運営委員会で一生懸命やっていたのを、ほんとうは、では、1回みんなで集まって、こういうケースはこうしたほうがいいのではないとか、あるいは、先ほど先生がおっしゃいました、同じ体育館とか教室とかといっても、各学校によって特別教室の位置も違うし、あるいは2階のところに体育館があるところもあるし、1回のところにフロアがあるところもあるし、トイレの位置も含めて全部違うわけなので、こういった図上訓練みたいなものを各学校の実際の図面の中でやるということもとても有意義なのかということも改めて感じましたので、先ほど冒頭で申し上げた9月以降、それぞれの学校区で避難所運営訓練があると思いますので、今日のようなことを1つ参考にしながら、では、今度、自分たちの学校の中でどうすれば、より適切に、スムーズに運営できるのかということと、あともう1つ、大きく気づかされたのは、時系列によってやっていかなければいけないことというのは変わっていくということと、あとは、熊本のところでも、先ほど車中の避難がありましたけれども、食糧は避難所に集まってきます。

でも、避難所じゃないところで避難している人もたくさんいます。そういう人も食糧を求め

に避難所に来て、それを配給しなければいけない。東日本のときにも避難所の外にいる人には渡さないとか渡すとかっていろいろなトラブルがあったと聞いていますし。そういうこともあらかじめ、やはりちゃんと準備して、外に避難している人をどうやってちゃんと適切に把握するのかということも課題かと感じましたし、あとは、先ほど配られた資料の中で気になったのは、たしか20ページぐらいのところだと思うんですけども、避難所生活していると、DVとか、その問題が結構深刻になって。全然ストレスから解放されないので、1カ月、みんなそこで生活していると、そういったなかなか日ごろは議論しにくい問題も起きてきていますということのはっとさせられましたので、そういったことを一つ一つみんなで気づいたことを、どうやったら解決できるかということを行行政としてもしっかりと目標としながら進めていきたいということを改めて学びました。

今日はほんとうに金谷先生、ありがとうございました。長時間になりましたけれども、またぜひ今後とも皆さん、力を合わせて災害に強い街をつくっていきたいと思います。よろしくお願いします。ありがとうございました。(拍手)

【東コーディネーター】 まだまだ聞き足りないこと、気になることあったと思うんですけども、想定できることはできるだけ準備しなければいけないんだということを今日非常に感じられました。またいろいろ行政の課題にしていきたいところです。

これでまちづくりトークは以上で終了です。アンケートのご協力と、お手元のワークで使ったカード等はまた先生が使われますので、そのまま置いておいていただければと思います。これが次回のまちづくりトークの案内です。来週、31日曜日に同じ会場で地域自治システムをテーマに行います。こちらもぜひご参加いただければと思います。

では、少し時間を割ってしまいましたが、これにて終了です。お疲れさまでした。ありがとうございました。(拍手)

— 了 —